

昨年8月の台風災害から半年を迎え、管内の被災農地では徐々に復旧が進んでいる。国庫負担の「災害復旧事業」の対象になったのは管内6市町の291.6ヘクタールで、このうち130ヘクタールが今春の作付けに間に合う予定。年内には8割程度の復旧作業が終わり、来春には耕作できる見通しとなった。



川の氾濫で大きな被害を受けた帯広市中島町の農地。雪の下は流木がそのままの状態、復旧完了は秋以降の見通しだ

農地復旧の見通し (災害復旧事業分)	単位:ha	作付け再開予定の時期	
		今春	今秋か来年中
帯広市	60.0	30.7	29.3
芽室町	104.5	33.9	70.6
清水町	115.9	62.0	53.9
新得町	0.9	0.9	—
本別町	2.7	2.7	—
足寄町	7.6	—	7.6
計	291.6	130.2	161.4

昨年8月30日の台風10号などで、管内各地で川の氾濫が原因で畑に土砂が流れ込み、表土が

流失する被害が出た。道によると、農地の被害箇所は14市町村の1106カ所。被害額は約75億円となっている。

復旧では、1カ所当たりの工事費が40万円以上の畑は、農林水産省の「災害復旧事業」を活用して行われる。災害査定の結果、管内では帯広、芽室、清水の3市町を中心に114カ所の291.6ヘクタールが対象になった。40万円以下の被害の畑は、市町村が小災害復旧事業で対応している。

優先順位付け回復急ぐ

このうち芽室町では、道営と団体営で計29カ所、104.5ヘクタールで災害復旧事業を実施。対象の畑は、▽春先の作付けに間に合う▽雪解けから5月中まで工事可能▽秋まき小麦作付けに間に合う▽河川復旧などとも連動—の4つに分類し、優先順位を付けながら工事発注。うち33.9ヘクタールが今春に作付けできる予定になった。

復旧工事の費用は、激甚災害に指定されたため96%を国庫負担で行う。残りは各市町が支出し、農家負担はゼロにする対応を取っている。道や市町村は農地に流れ込んだ土砂を撤去したり、土を入れて整地したりする作業を進めている。十勝総合振興局産業振興部は「基幹産業の農業の活気が戻らなければ、経済活性化につながらない。春または秋の作付けに間に合うように早期の施工に努めたい」としている。

ただ、表土が大きく削られた畑では客土により元の畑の形に戻っても、土壌成分が戻るには堆肥を与えるなど改良が不可欠。長期間の休耕は避けられても、生産量の回復には時間がかかるとみられる。

戸蔭別川の氾濫で、帯広市中島町が大きな被害に遭ったJ A帯広大正の吉田伸行組合長は、客土を増やすように要望している。現状復旧で行われる深さ25センチの客土は、砂利層の上では、保水や作物の根の張りに不十分だと指摘し、「土づくりの復旧は1年で終わらず、元に戻すには毎年の大変な労力が必要になる。客土事業を行う場合に少しでも地元負担が軽減できるように国や道、市に要請していきたい」と話している。

スナック菓子大手のカルビー（東京）と湖池屋（同）は10日、ポテトチップスの一部商品の販売を休止することを明らかにした。昨年8月の台風による農業被害で、十勝を中心に道産ジャガイモの原料が不足したため。主産地の不作で大手メーカーの販売計画が変更を迫られ、地元スーパーは代替商品の確保に追われている。

カルビーは「ポテトチップス フレンチサラダ」や地域限定商品など18商品の出荷を15日に終了する。「ポテトチップスBIG BAG うすしお味」「ピザポテト」

など15商品は22日で出荷を休止。主力のポテトチップス商品は継続し、原料を集中させる。